卒業生調査　結果

調査対象者

令和 6 年度の本学介護福祉学科の卒業生（第 28 期生）12 名

調査期間

令和 7 年 12 月から令和 8 年 1 月

調査票回収数・回収率

回収：7 名

回収率：58.3%

1．回答者の属性

回答者 7 名のうち女性 6 名（86%）、男性 1 名(14%)。年齢は全員が 20 代であった。

回答者の居住地は、秋田県の中央地域 4 名（57%）、県南地域 1 名（14%）、県北地域 2 名（29%）であった。

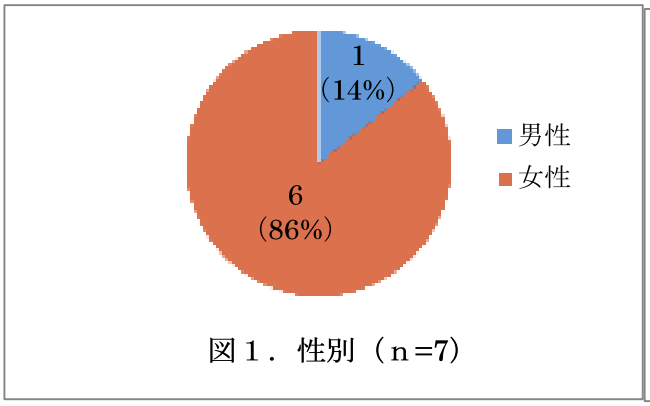


図 1．性別（n=7)

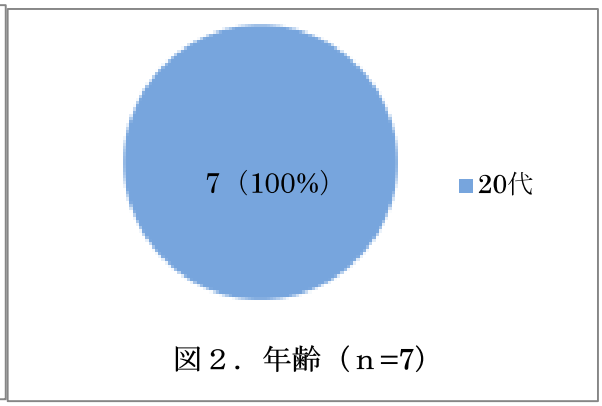


図 2．年齢（n=7)

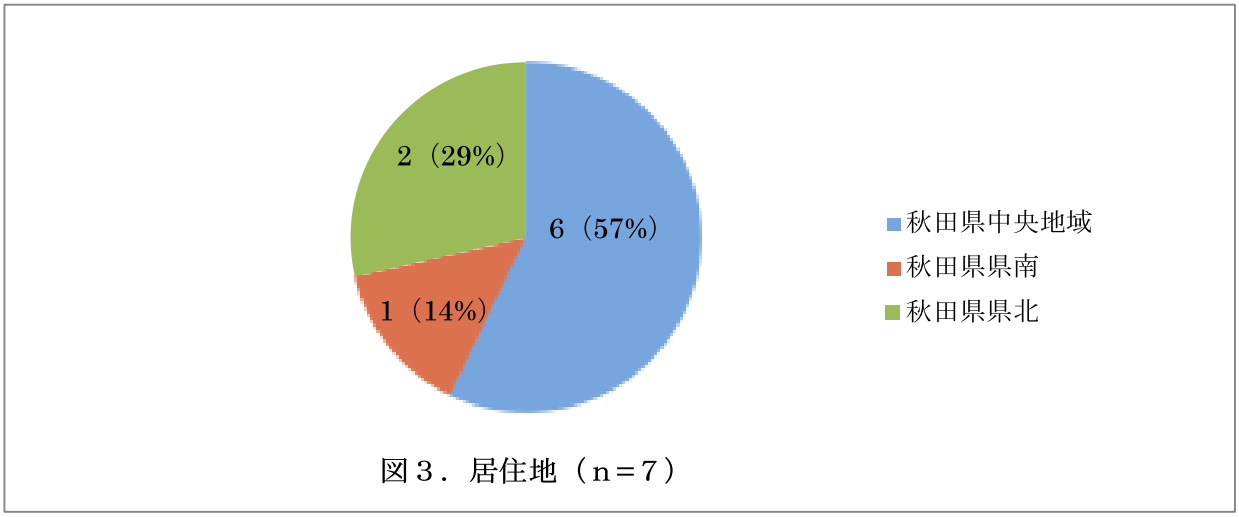


図 3．居住地（n＝7）

２．卒業生の就業先・職種

回答者のうちの７名全員が就業中であった。

就業者の職業種別は全員が「介護・福祉関係」であり、従事している職種は全員が「ケアワーカー（介護職）」であった。

就業先の運営主体については「社会福祉法人」５名（71%）、「医療法人」が２名（29%）であった。

３．在学中の教育・学生生活に対する満足度

在学中の教育や学生生活について、『教育内容』、『学生生活』、『施設･設備』の区分で満足度を尋ねた。

１）『教育内容』に対する満足度

教育内容については、「カリキュラム編成(授業科目)」、「講義・演習の内容」、「ゼミ･研究活動」、「介護実習」の４項目について満足度を尋ね、更に教育内容全体に対しての総合的満足度を尋ねた。

どの項目も満足度にバラつきがあったが、「満足している」が最も多かった項目は「学内での講義・演習」で６名（86%）、次いで「介護実習」５名（71%）であった。

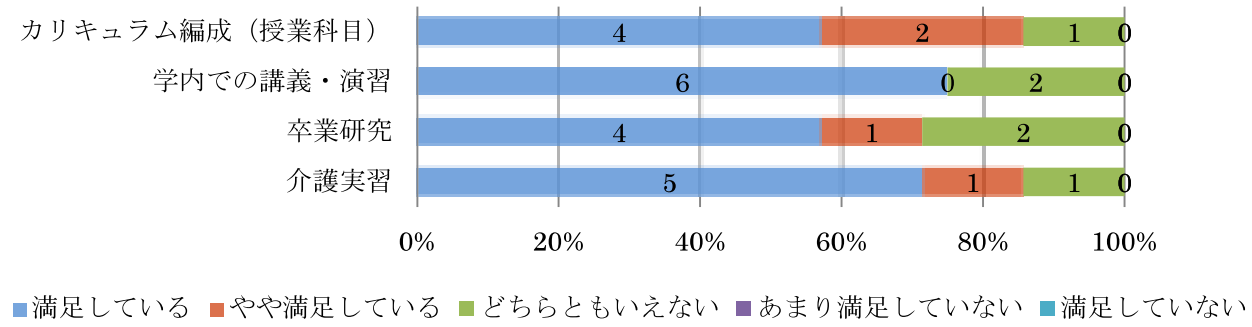


図４．教育内容に対する満足度（ｎ=7）

教育内容全体に対する総合的満足度は、「満足している」が５名（71）、「やや満足している」が２名（29%）であった。

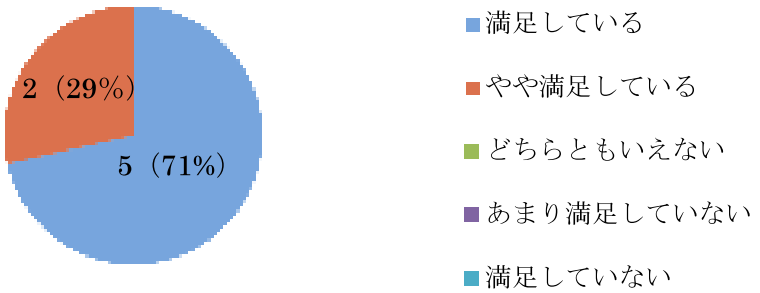


図５．教育内容に対する総合的な満足度（ｎ＝７）

２）『学生生活』に対する満足度

ここでは 10 項目に対する満足度を尋ねた。

「満足している」が最も高かった項目は「教員との交流（関係）」「事務室の対応」「ボランティア活動」で各 4 名（57%）であった。次いで「介護福祉学科先輩・後輩との交流」「学内行事」「進路に関する支援」が各 3 名（43%）であった。

一方で、「あまり満足していない」との回答が見られた項目は、「看護学部学生との交流」3 名（43%）、「サークル活動」2 名（29%）、「介護福祉学科先輩･後輩との交流」1 名（14%）であった。

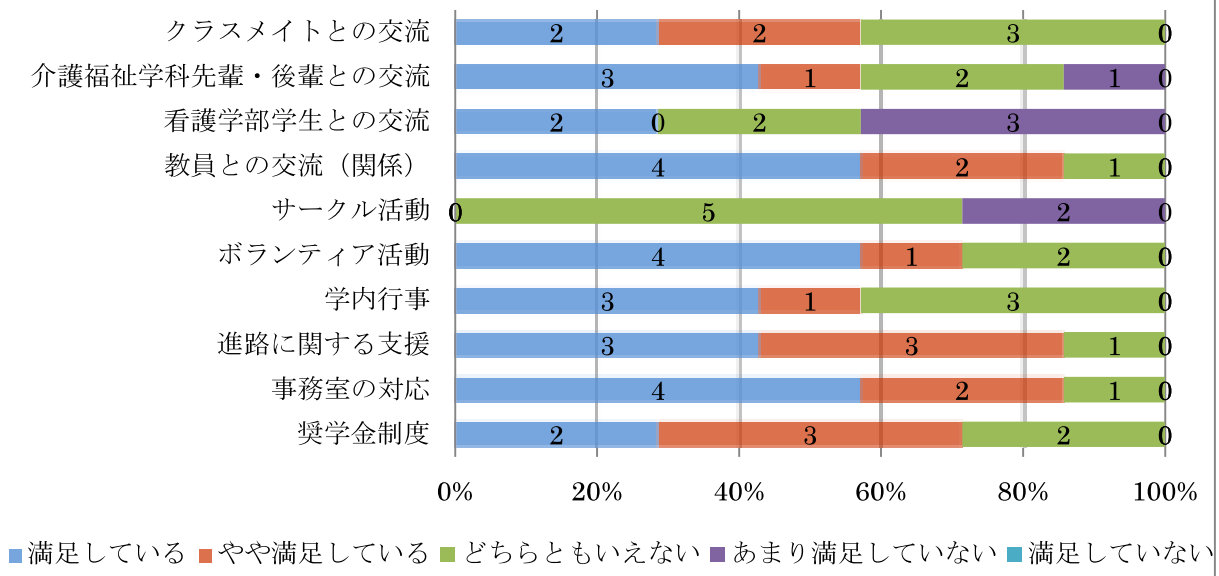


図６．学生生活に対する満足度（n＝7）

学生生活に対する総合的満足度は、「満足している」3 名（43%）、「やや満足している」3 名（43%）、「どちらともいえない」1 名（14%）であった。

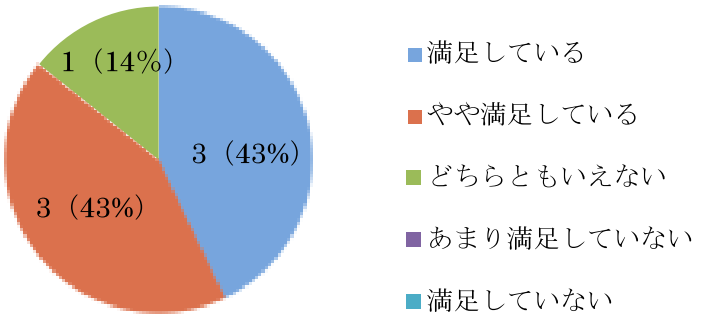


図７．学生生活に対する総合的な満足度（n＝7）

３）『施設・設備』に対する満足度

ここでは 10 項目に対する満足度を尋ねた。

「満足している」が最も多かった項目は「実習室の設備・環境」４名（57%）であった。次いで「ＰＣ、専門機材等の充実」「学生食堂の環境、メニュー」「売店の環境、品数・品揃え」「更衣室の環境」「くつろぐ場所（ラウンジなど）」が各３名（43%）であった。

一方で、「あまり満足していない」や「満足していない」という否定的な回答があった項目は「更衣室の環境」「売店の環境、品数・品揃え」「実習室の環境」「図書館の設備・環境、蔵書」「くつろぐ場所（ラウンジなど）」であった。

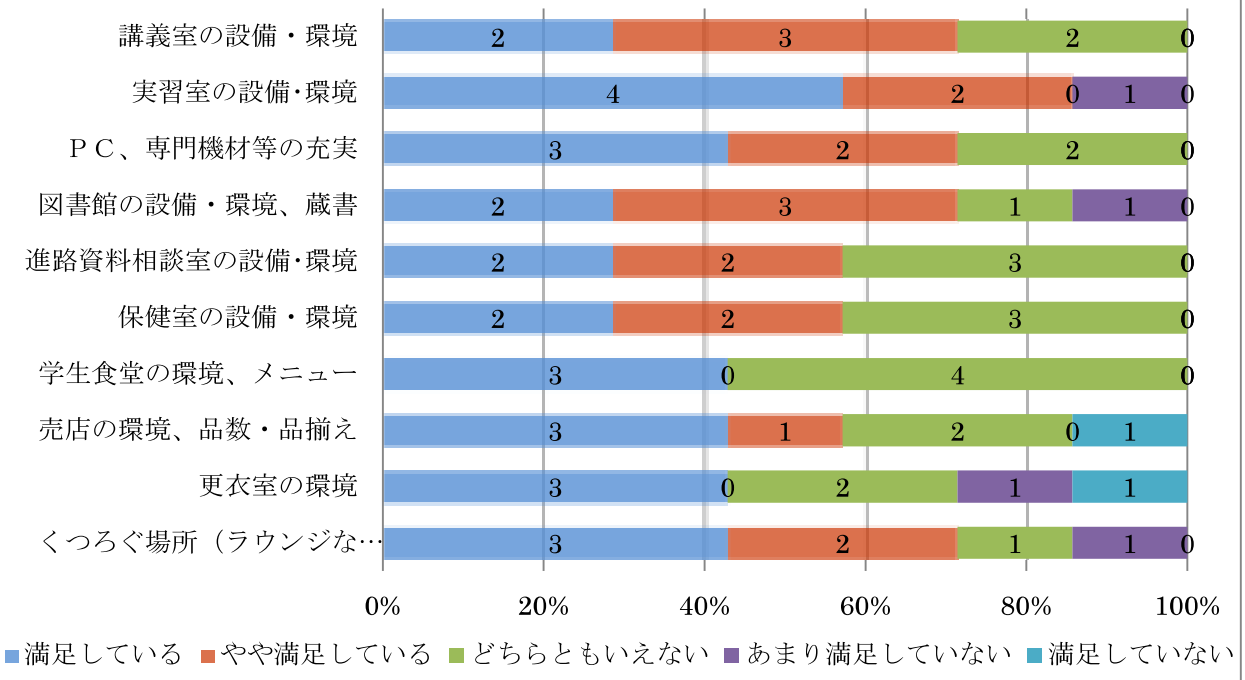


図８．施設・設備に対する満足度（ｎ＝７）

施設･設備に対する総合的満足度は、「満足している」が４名（57%）、「やや満足している」が３名（43%）であった。

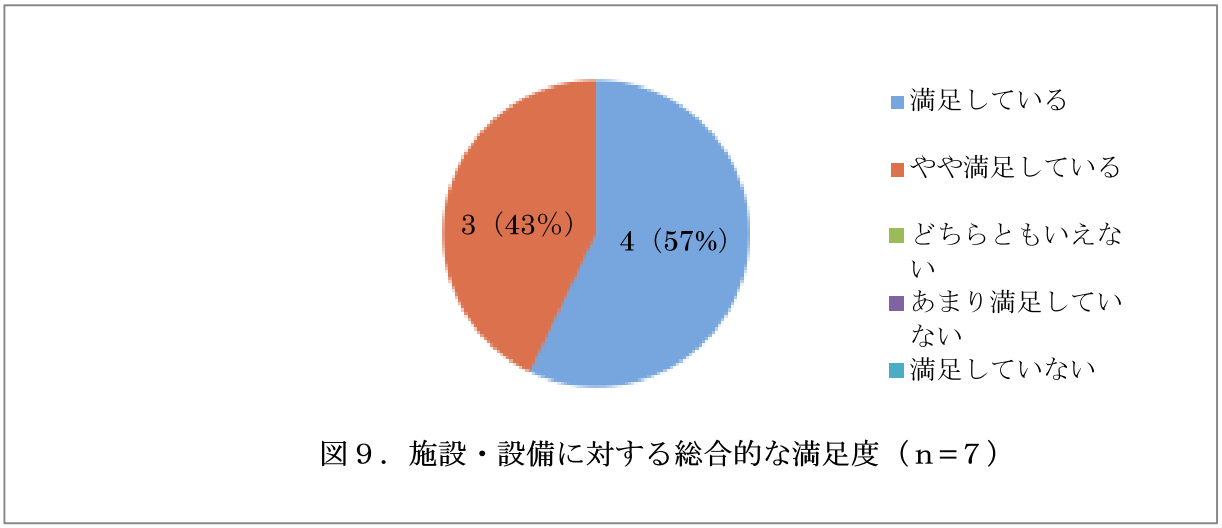


図９．施設・設備に対する総合的な満足度（ｎ＝７）

４．本学での学びを通して身につけたこと

設定した 6 項目が本学の学びを通して身についたと思うか、について、「身についた」から「身につかなかった」までの 5 件法で回答を求めた。

全員から「身についた」と「まあまあ身についた」という肯定的な回答が得られた項目は、「介護福祉の基礎を踏まえ、科学的･倫理的判断に基づくケアを提供できる力」「他者との関係性を発展させることができる力」「事実を的確に判断し、問題を抽出し、創造的に解決できる力」であった。

「身についた」という回答が最も多かった項目は「介護福祉の基礎を踏まえ、科学的・倫理的判断に基づくケアを提供できる力」、「常に社会の動向に関心を持ち、介護福祉実践を通じて社会貢献できる力」各 5 名（71%）であった。

どの項目においても「あまり身につかなかった」「身につかなかった」という否定的な回答はなかったが、「どちらともいえない」があった項目が 3 項目あり、「社会的責任を自覚し、生涯学習し続け、他の専門職と協働活動できる力」が最も多く 2 名（29%）であった。

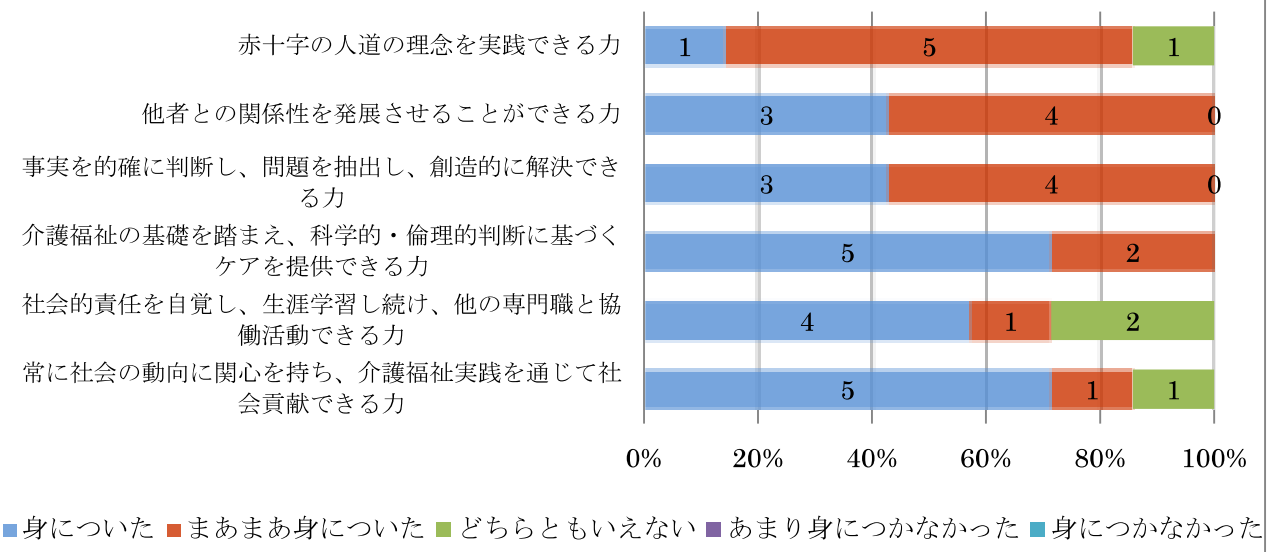


図10．学びを通して身についたと思う事柄（n＝7）

５．本学での学びが仕事（職場）で役立っているか

本学での学びが仕事。職場で役立っているかについては、「役立っている」5 名（71%）、「少し役立っている」2 名（29%）であった。

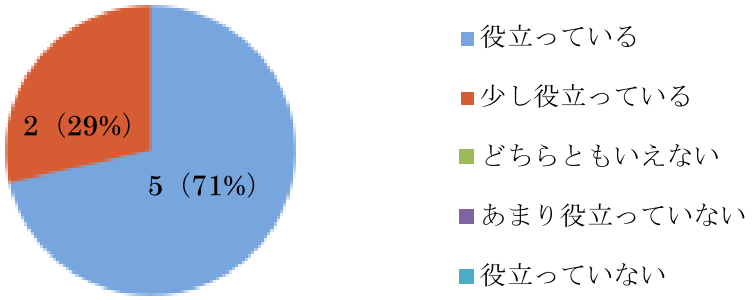


図11．学びが仕事・職場で役立っているか（n＝7）

６．在学中にもっと勉強しておけばよかった事、身につけられればよかった事

在学中にもっと勉強をしておけば良かったと思う科目、身につけられればよかったと思う知識や技術について、自由記述により回答を得た。

・勉強しておけば良かったと思う科目について 4 名からの回答があった。

- 社会の理解
- 多職種との連携
- こころとからだのしくみ
- 介護過程

身につけられればよかったと思う知識や技術については 4 名からの回答があった。記載内容は次の通りである。

- 制度
- 標準予防策について
- 入浴（機械浴）
- 皮膚状態にあわせての洗身･洗髪について
- 医学的分野（こころとからだのしくみ）
- 既往歴から日常生活への予測される身体症状
- 薬（塗布、服薬）について
- 体重が重い方の移乗介助

７．授業・実習についての改善希望点

在学中に受けた授業や実習について改善してほしいと思ったことを、自由記述で回答を求めたところ 3 名からの回答があった。記載内容は次の通りである。

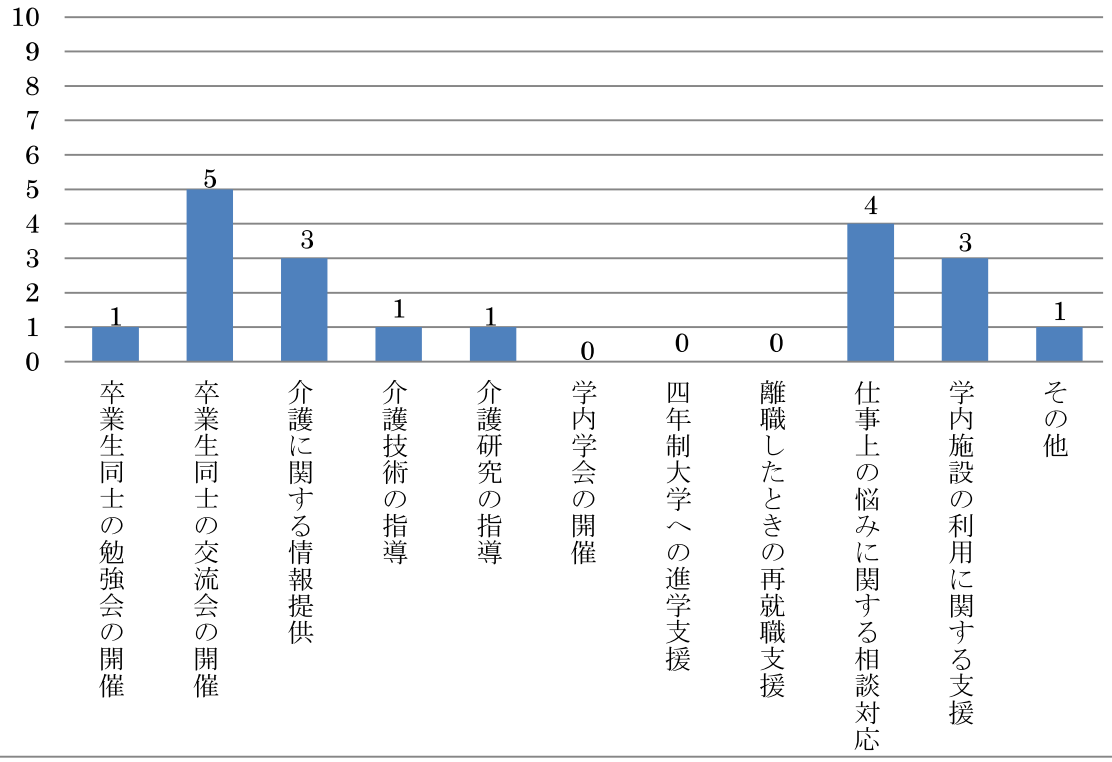
- 制度についての講義内容
- 学校で受けたことと現場でのことが一致していない。ギャップがあり、現場に入ってから学ぶことが沢山ありすぎてる。もう少し現場についての話や内容について聞きたかった。
- 特にありません

８．本学への要望

１）本学から支援をしてほしいと思う事

本学から支援をしてほしいと事柄について 11 項目について複数回答で回答を求めた。
最も多かった項目は「卒業生同士の交流会の開催」5 名（71%）であった。
次いで「仕事上の悩みに関する相談対応」が 4 名（57%）、「介護に関する情報提供」「学内施設の利用に関する支援」各 3 名（43%）であった。
「その他」への記載内容は「特にないです」というものだった。

図12．本学への要望（複数回答）



９．本学への意見

本学への意見については 3 名からの回答があった。

- 先生方はほとんど現場で働いてから先生になられた人が多いと思いますが、実際学校で学んだことと現場で働いてからのことでは違いが多くギャップがある。その違いの差に惑わされなかなか上手く仕事ができないことが多かった。授業では教科書にあることを学ぶことが 1 番大事だが、先生から現場ではこうしてるところが多い、現場ではこのような利用者様がいる、などと言った実際の現場の状況について教えて欲しかった。
- 学校で学んだことを生かし日々仕事に励んでおります。ありがとうございました。
- 楽しく学校生活が送れたので、また戻りたいなと毎日思います。

以上